

キッズドアスタイル

2018年度Ver

KIDS' DOOR
NPO法人 キッズドア



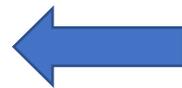


団体が新たなフェーズに入った！

課題

1. 職員の働き方が多様でなかなか横断型のコミュニケーションがとりにくい
2. 新たなフェーズに向けて、キッズドア社員全員の意識共有が必要！
3. 団体として進むべき方向をトップダウンだけでなく働く職員皆で創っていききたい

そんな願いを込めて・・・



ご相談！！





ご提案



1. 社会的インパクトについて理解する講義
2. 上記を理解した上でのロジックモデルワークショップ



いいね！



運営側の狙い



- ① 様々な部門の各職員が主体的に委員会に関わることで、お互いの意見をぶつけ合い、新たな課題発見や解決方法をマスターしていくこと
- ② 部署をこえた横断的な関わりができるようになること

★今回は基幹事業である「**学習支援**」
に特化した**ロジックモデル**を作成



ロジックモデル作成のマイルストーン

月	内容
6月	社会的インパクト+ロジックモデル基礎ワークショップ
	社内ロジックモデル検討・作成委員会立ち上げ
	第1回定例MTG開催
7月	社内に向けた中間報告会
8月	成果発表
	シーズン1終了

- シーズン I で「学習会に対するロジックモデル」の完成
- 上記作成中に「受益者・ボランティアさんに対してのロジックモデル」作成の必要性があることがわかり、9月よりシーズンⅡスタート！
- 同時に社会的インパクト評価に対する事業の効果測定の必要性があるため、測定方法を作成
- 12月に「受益者・ボランティアさんVer」完成
- 1月よりキッズドア学習会の基盤となるノウハウ共有システムの整理に入る（現在進行中→年度末完成予定）



作成委員会の課題

- 成果発表まで2か月しかないため、働き方の多様な職員がどのようにロジックモデルを作成していくか
 - オンラインMTGを行い移動の手間を省く
 - チームMTGでは次回MTGまでのゴールを明確にし各自のアイデアで作業
 - チームMTGはそれぞれのアイデアのすり合わせ
- 作成しているものが、果たして欲しいゴールにきちんと向かっているのか不安
 - アドバイザー 鴨崎氏による丁寧な指導（伴走支援）



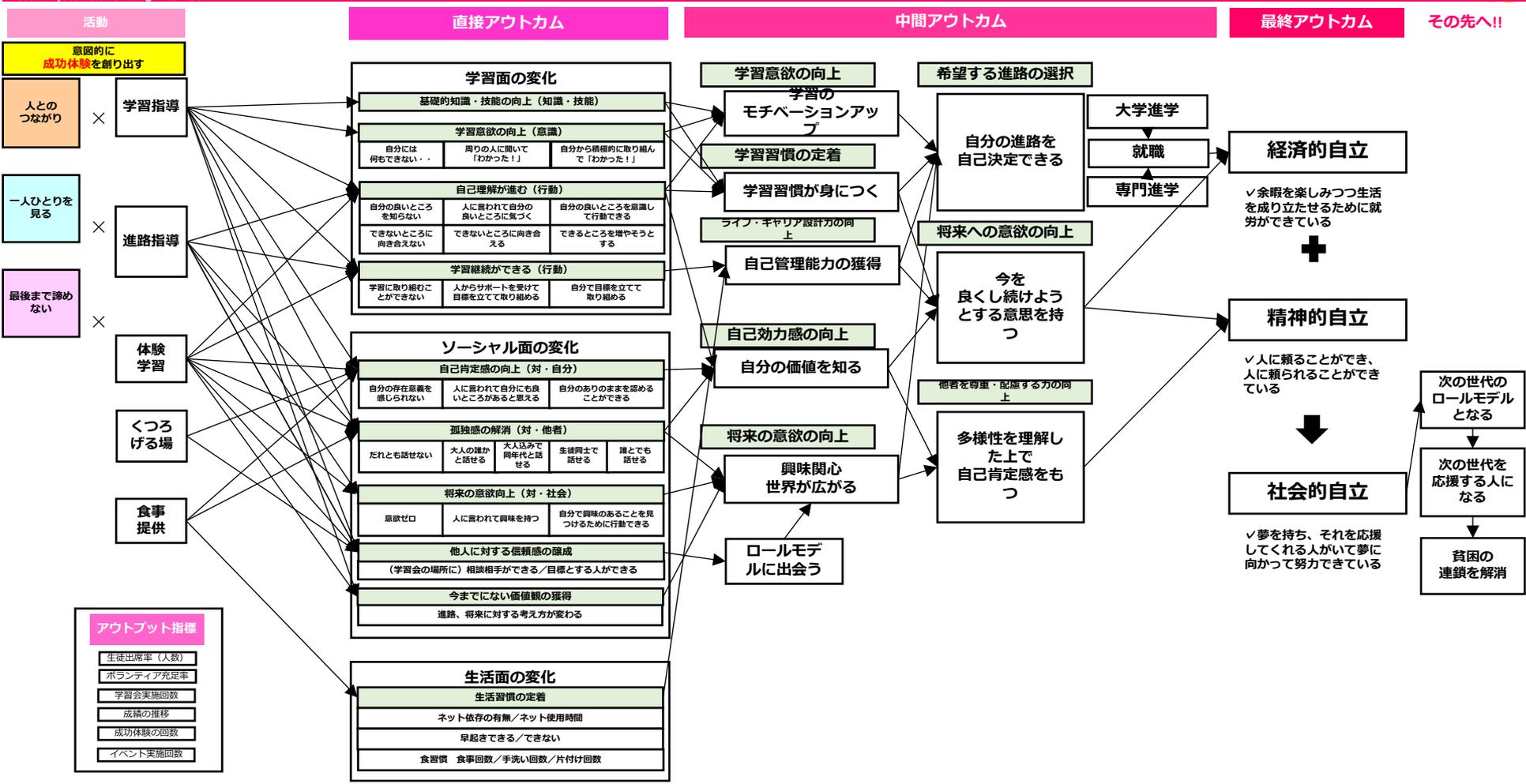
シーズン I

学習支援特化のロジックモデル



キッズドア無料学習会 ロジックモデル (指標ラベル変更)

Social Impact Measurement @ KIDS' DOOR

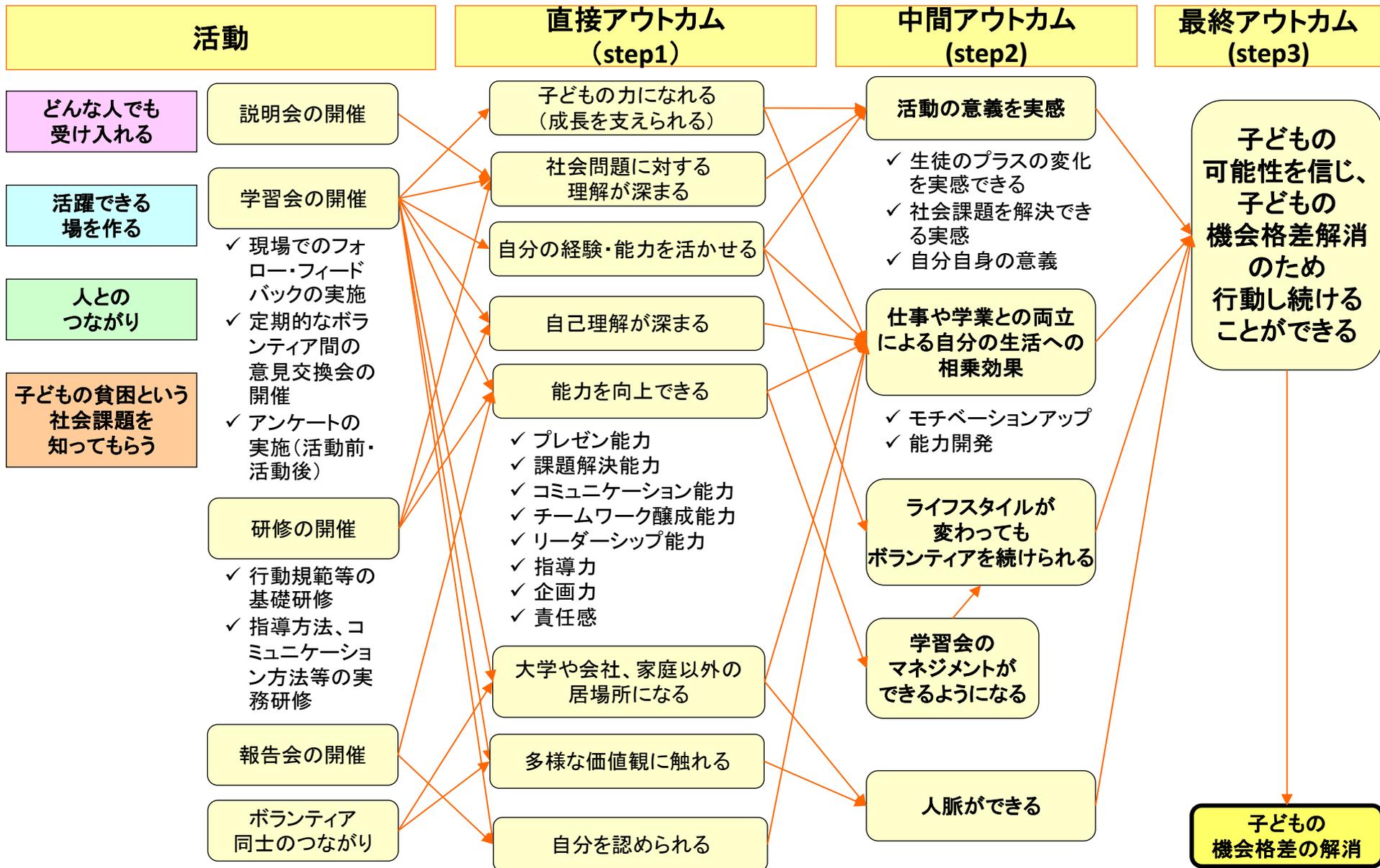




シーズンⅡ

ステイクホルダーを意識した ロジックモデル

【ロジックモデル検討案】 受益者：ボランティア（潜在的ボラ含む）





1. 効果検証の概要

(1) 効果検証の概要

- 本検証は、キッズドアが実施する無料学習会事業の効果を検証することで、当該事業を改善し、子どもたちにとって最適な支援を行うことを目的に実施する。
- キッズドアが実施する無料学習会事業における、2018年度の学習会利用者を対象に実施するアンケート調査及び、子どもたちの変化を職員・ボランティア側から捉えるアンケート調査をもとに、分析を行う。

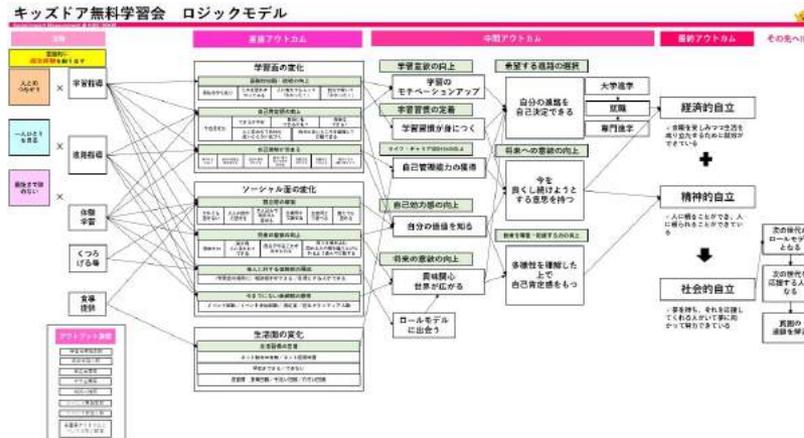
アンケート調査の概要

対象者	①キッズドアが提供する無料学習会事業利用者（子ども本人）及び ②子どもたちが通う学習会運営職員、学習会参加ボランティア
調査期間	年3回の調査を行う ①2018年4月～5月または学習会参加時 ②2018年9月～10月 ③2019年2月～3月
回収方法	対象者にアンケート調査票（一部、学力検査）を配布、各教室にて回収
分析	***

2. 効果検証の考え方

(1) キッズドアのロジックモデルと効果測定の対象範囲

- 以下赤枠は、キッズドアのロジックモデルと今回の効果測定の範囲を示したものである。
- 今回検証する活動は、無料学習会事業の学習支援と進路指導、体験学習、くつろげる場の提供、食事提供であり、それによって改善が見込まれると考えられる初期アウトカム（学力等）の範囲を効果測定の対象とする。



(2) 各学習会特色の整理と分析対象

- 本調査では、2018年度の無料学習会利用者进行分析対象とする。中には、2017年度利用者もいるため、アンケート用紙にて質問を入れ、分かるようにしておく。
 - なお、小学生に関しては、アンケート調査を実施しないため、分析対象は中学生・高校生のみとする。
 - また、キッズドアの無料学習会に関しては、4タイプの支援形態があるため、アンケート用紙にて質問を入れ、分かるようにしておく。
- ① 居場所型 ② 週1学習会型 ③ 受験対策型 ④ 東北型



3. 調査項目

(1) アンケート質問項目

① キッズドアが提供する無料学習会事業利用者（子ども本人）

○ P.3に示した、キッズドアのロジックモデルと今回の効果測定の範囲に基づき、現在の自分の状態を問う質問をする。

(2) 基礎学力検査項目

① キッズドアが提供する無料学習会事業利用者（子ども本人）

○ P.3に示した、キッズドアのロジックモデルと今回の効果測定の範囲に基づき、基礎学力検査を行う。

（問題は学年別に用意）※自作？

主観評価シート									
大項目	アンケート項目	4段階評価							
学習意欲の向上 (意識)	勉強に対する姿勢	意識的	やや意識的	やや消極的	消極的				
自己理解が進む (行動)	自分の苦手を把握している	とてもそう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない				
学習継続ができる (行動)	目標を立てて勉強に取り組むことができる	とてもそう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない				
自己肯定感の向上 (自分)	自分には良いところがある	とてもそう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない				
孤独感の解消 (他者)	孤独を感じることもある	とてもそう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない				
将来の意欲向上 (社会)	将来やりたいことがある	とてもそう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない				
今までにない 価値観の獲得	将来に対する考え方の変化	1. 将来ふつろに生活するのに困らないくらいの学力があればいい	2. どこかの高校や大学・短期大学に入れる学力があればいい	3. できるだけいい高校や大学に入れるよう、成績を上げたい	4. 学校生活が楽しくければ、成績にこだわらない	5. 今は勉強することが一番大切なことだ	6. そんなに勉強しなくても、なんとか大学に進学できるだろう	7. できれば進学の気持も地元でほしい	8. いずれ海外に留学してみたい
他人に対する 信頼感の醸成	あなたが悩んだときに相談する人は誰ですか	1. 親	2. 親以外の家族（兄弟姉妹や、祖父母など）	3. 学校の先生	4. 面白い事などの先生	5. キッズドアの学習会の先生	6. その他の大人	7. 友だち	8. 話せる人はいない
	あなたの目標とする人は誰ですか	1. 親	2. 親以外の家族（兄弟姉妹や、祖父母など）	3. 学校の先生	4. 面白い事などの先生	5. キッズドアの学習会の先生	6. その他の大人	7. 友だち	8. 話せる人はいない

基礎学力の向上 (知識・技能)	基礎学力をはかるテストを定期的実施。伸びをはかる。 基礎学力をはかる⇒どの教材を使うか
算数・数学：基本的な計算ができる 国語：基本的な漢字の読み書きができる、言葉の意味を知っている	

効果測定



(1)アンケート質問項目

②子どもたちが通う学習会運営職員、学習会参加ボランティア

○ P.3に示した、キッズドアのロジックモデルと今回の効果測定の範囲に基づき、学習会運営職員、学習会参加ボランティアから見た子どもの変化を捉えるため、①期初 ②期中 ③期末に子ども一人ひとりの状態を9段階で評価し、その変化を見る。

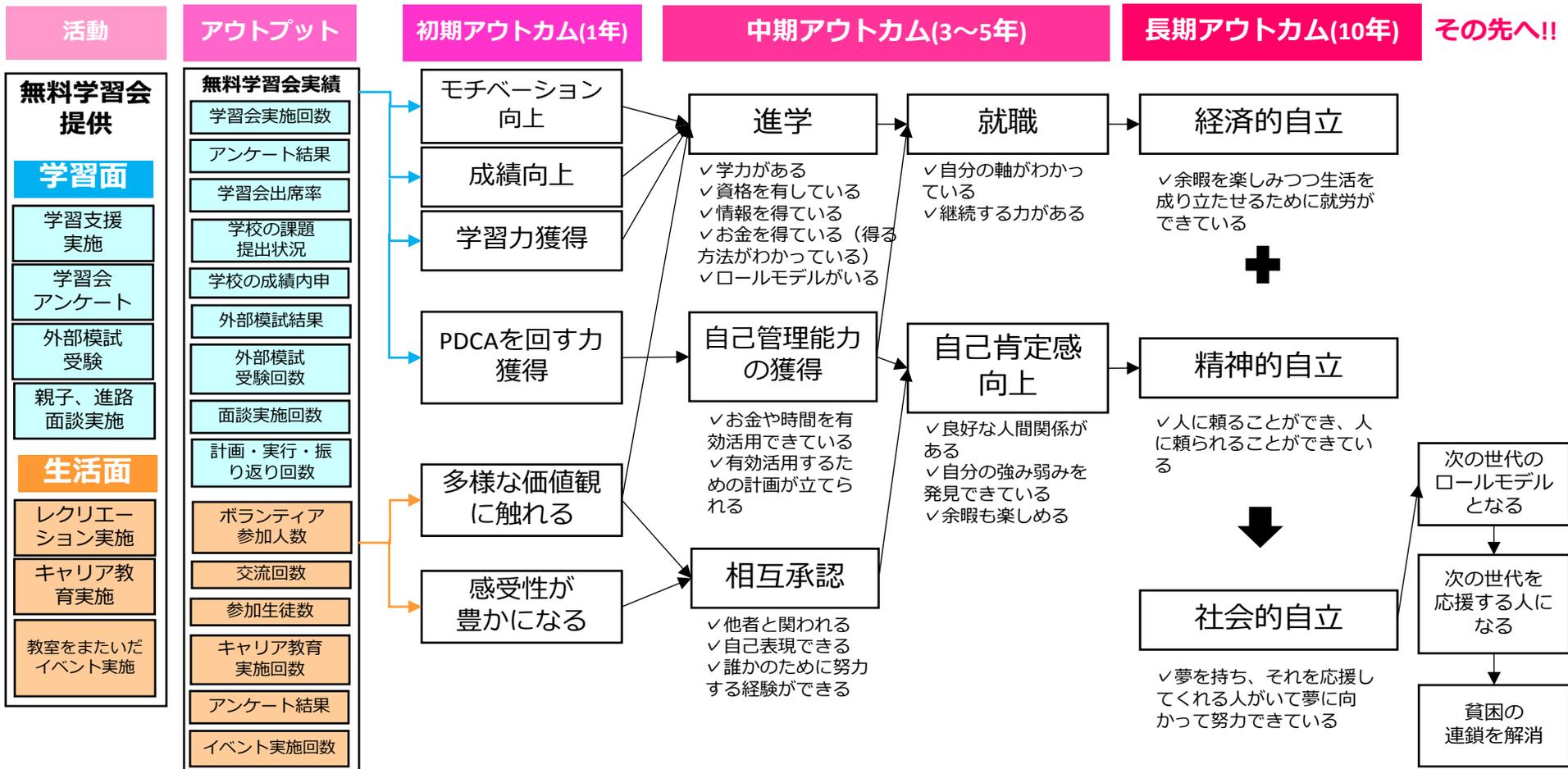
それぞれ「間」も選べるようにし、
9段階とする

		客観評価シート				
		1	2	3	4	5
		受動行動	通常行動	能動行動	創造行動	革新行動
学習面	学習意欲の向上 (意識) 自分にはどうせ何もできないと思い、目の前に出された問題に取り組むことができない 目の前に出された問題に対し、自分にもできると思う	自分にはどうせ何もできないと思い、目の前に出された問題に取り組むことができない	目の前に出された問題に対し、自分にはできることが限られているからと、周りの人に聞きながら取り組む	目の前に出された問題に対し、自分にもできると考え、自分から積極的に取り組むことができる	目の前に出された問題に対し、自分にもできると考え、自分なりに工夫して取り組むことができる	目の前に出された問題に対し、たとえ難しい問題でも自分にはできると考え、諦めずに取り組み続けることができる
	自己理解が進む (行動) 自分のできないところとできるところを把握できず、人から言われても自分の苦手に向き合うことができない 自分のできないところを把握し、できるところを増やそうと思う	自分のできないところとできるところを把握できず、人から言われても自分の苦手に向き合うことができない	自分のできないところとできるところを把握できていないが、人に関して理解しようとして努めている	自分のできないところとできるところを把握しており、できるところを増やそうと思いつける	自分のできないところとできるところを把握しており、自分で工夫して得意部分を増やす努力ができる	自分のできないところとできるところを把握しており、自分から得意を伸ばすだけでなく苦手克服のために努力できる
	学習継続ができる (行動) 人からサポートを受けながら目標を立て、目標達成のために何を勉強すれば良いかを設定し、計画に即して行動できる 目標を立て、目標達成のために何を勉強すれば良いかを設定し、計画に即して行動できる	人からサポートを受けながら目標を立て、目標達成のために何を勉強すれば良いかを設定し、計画に即して行動できない	人からサポートを受けながら目標を立て、目標達成のために何を勉強すれば良いかを設定し、意識して取り組むことができる	目標を立て、目標達成のために何を勉強すれば良いかを自分で設定し、計画に即して行動できる	目標を立て、目標達成のために何を勉強すれば良いかを自分で設定し、自分の傾向なども把握し工夫しながら行動することができる	目標を立て、目標達成のために何を勉強すれば良いかを自分で設定し行動するだけでなく、自分の行動を振り返って行動を改善しつづけられる
ソーシャル面	自己肯定感の向上 (自分) 自分のありのままを受け入れることができず、自分の存在意義を感じられない 自分のありのままを受け入れ、良い面にも悪い面にも向き合いつつ自分の存在意義を感じることができる	自分のありのままを受け入れることができず、自分の存在意義を感じられない	自分のありのままを受け入れることはできていないが、人に言われて自分にも良い面があると知り、自分には良いところがあると思える	自分のありのままを受け入れ、良い面にも悪い面にも向き合うことができ、自分は自分のままでいいと思える	自分のありのままを受け入れ、良い面にも悪い面にも向き合うことができ、良い面や悪い面を意識して行動できる	自分のありのままを受け入れ、良い面にも悪い面にも向き合うことができ、他人のために行動することができる
	孤独感の解消 (他者) 悩みや困ったことがあっても、自分のことはだれにもわからない、自分一人では無いと感じられ、安心感を持って人とコミュニケーションできる 悩みや困ったことがある時に、自分一人では無いと感じられ、大人や信頼する友達に打ち明けることができる	悩みや困ったことがあっても、自分のことはだれにもわからない、自分一人だと考え、誰にも打ち明けられない	悩みや困ったことがある時に、大人から聞かれて少しずつだが打ち明けられることができる	悩みや困ったことがある時に、自分一人では無いと感じられ、大人や信頼する友達に打ち明けられることができる	悩みや困ったことがある時に、一人では無いと感じられ、人に悩みを打ち明けられることができる	悩みや困ったことがある時に、一人では無いと感じられ、人と悩みを共有したり、相談に乗ることができる
	将来の意欲向上 (社会) 自分が興味のあることや関心のあることを理解しておらず、将来への意欲も低い、今が楽しければよい 自分が興味のあることや関心のあることを理解しており、将来のやりたいことを見つることができる	自分が興味のあることや関心のあることを理解しておらず、将来への意欲も低い、今が楽しければよい	自分が興味のあることや関心のあることをほんやり理解して、人から質問されるうちに少しずつ将来のやりたいことを意識できる	自分が興味のあることや関心のあることを理解しており、将来のやりたいことを見つげようと思える	自分が興味のあることや関心のあることを理解しており、将来のやりたいことをハッキリと伝えることができる	自分が興味のあることや関心のあることを理解しており、将来のやりたいことを実現するために行動ができる

【参考】 受益者子どもチーム バージョンアップ！ 2



Social Impact Measurement @ KIDS' DOOR



発足の経緯

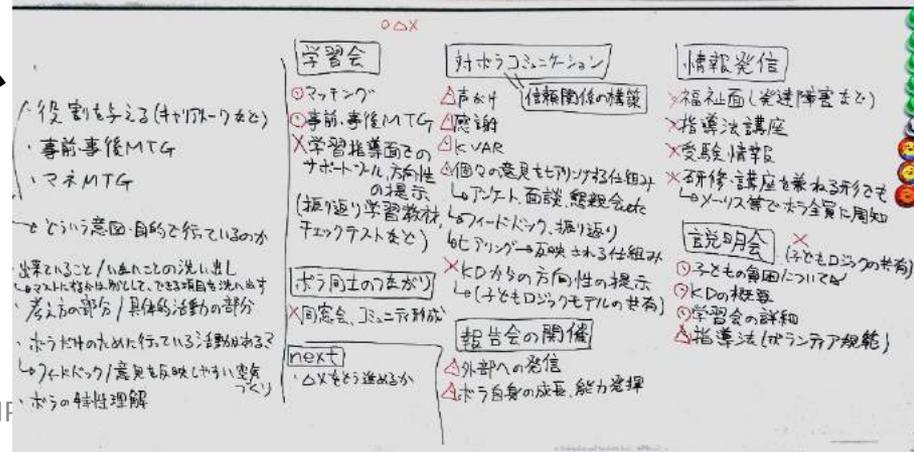
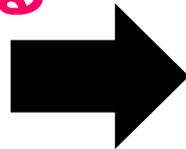


Social Impact Measurement @ KIDS' DOOR

先日教育支援事業部ミーティングにて、下記の課題が挙がった。

1. 中途入社職員用の「学習会担当スタートキット」のようなものがなく、**今年新しく入ったばかりの職員が大変苦勞しながら現場を回している。**この状況は思わしくないのでは。
2. ボランティアさんから問い合わせがあったときに**現場スタッフが答えられず信頼を失ってしまうことがある。**それを防ぐために、時期ごとに受験対策や教材の選び方等、必要な状況をインプットする機会が欲しい。
3. ボランティアさんへ、研修に限らず**もっと現場・現場でフォローしていく必要があるのでは。**

現在、ロジックモデル委員会でも、**現場の活動をもっと良くするためにできること**を話し合っており、**重なる所が大きい。**



年度末までに準備するもの



Social Impact Measurement @ KIDS' DOOR

カテゴリ1
部署横断で必要なもの

①チラシひな型 ★なる早

⇒イベントチラシ、生徒募集チラシ、ボランティア募集チラシなど、これまでに作ったものを一箇所に格納。都度新しいものを作らなくて良いようにしたい。

カテゴリ2
学習会業務に必要なもの

①学習指導面でのサポートツール ★次年度はじめまで

⇒おすすめ市販教材リスト、レベルチェックテスト
全体で使えるものを作る。

カテゴリ3
ボランティアとの
関係構築に必要なもの

①チームづくりのスキル ★次年度はじめキックオフまで

⇒全体で使える資料を作る。

④方向性の提示 ★次年度はじめのキックオフまで

⇒キッズドアの目指していく方向性（子ども版ロジックモデル）をボランティアさんに伝える資料を作る。

カテゴリ4
子どもサポートに
必要なもの

③受験情報、受験対策テクニック講座 ★次年度はじめまで

⇒受験対策テクニック勉強会 開催（済）受験の仕組み、チャレンジ校対策など、全体で使える資料を作る。

カテゴリ5
説明会運営に必要なもの

①説明会用スライド ★今年度合同説明会資料もらう

⇒子どもの貧困に関するインプット、キッズドア団体概要、学習会詳細

すべての子どもが、成長できる「教室」

Teach For JAPAN

インパクトメジャーメント
*Teach For Japan*の取組

PwC あらた監査法人

中島 悠生 (Yuki Nakajima)

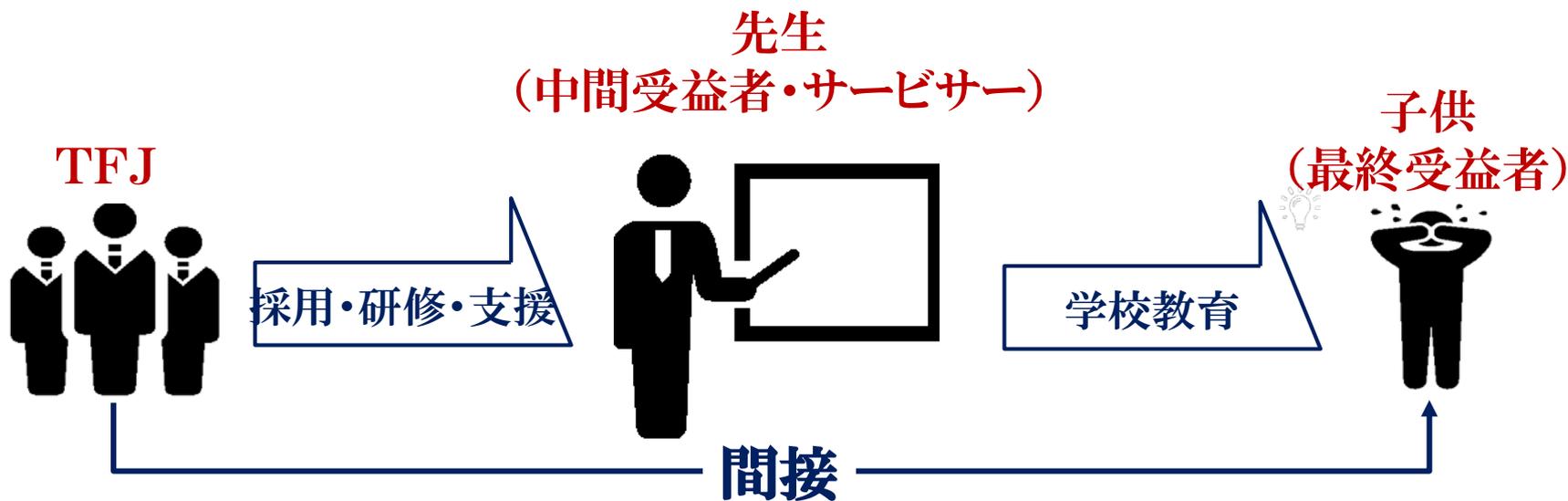
Email : yuki.nakajima.work@gmail.com

1. 実施目的

インパクトメジャーメント実施目的

TFJの支援モデル

最終受益者に対し、サービスを提供する中間受益者に対して、TFJはサービスを提供する。最終受益者に対しては間接的なサービス提供となる



インパクトメジャーメント実施目的

「最終提供サービスの質の把握」と「受益者の変化の把握」
が物理的にも、技術的にも難しい。

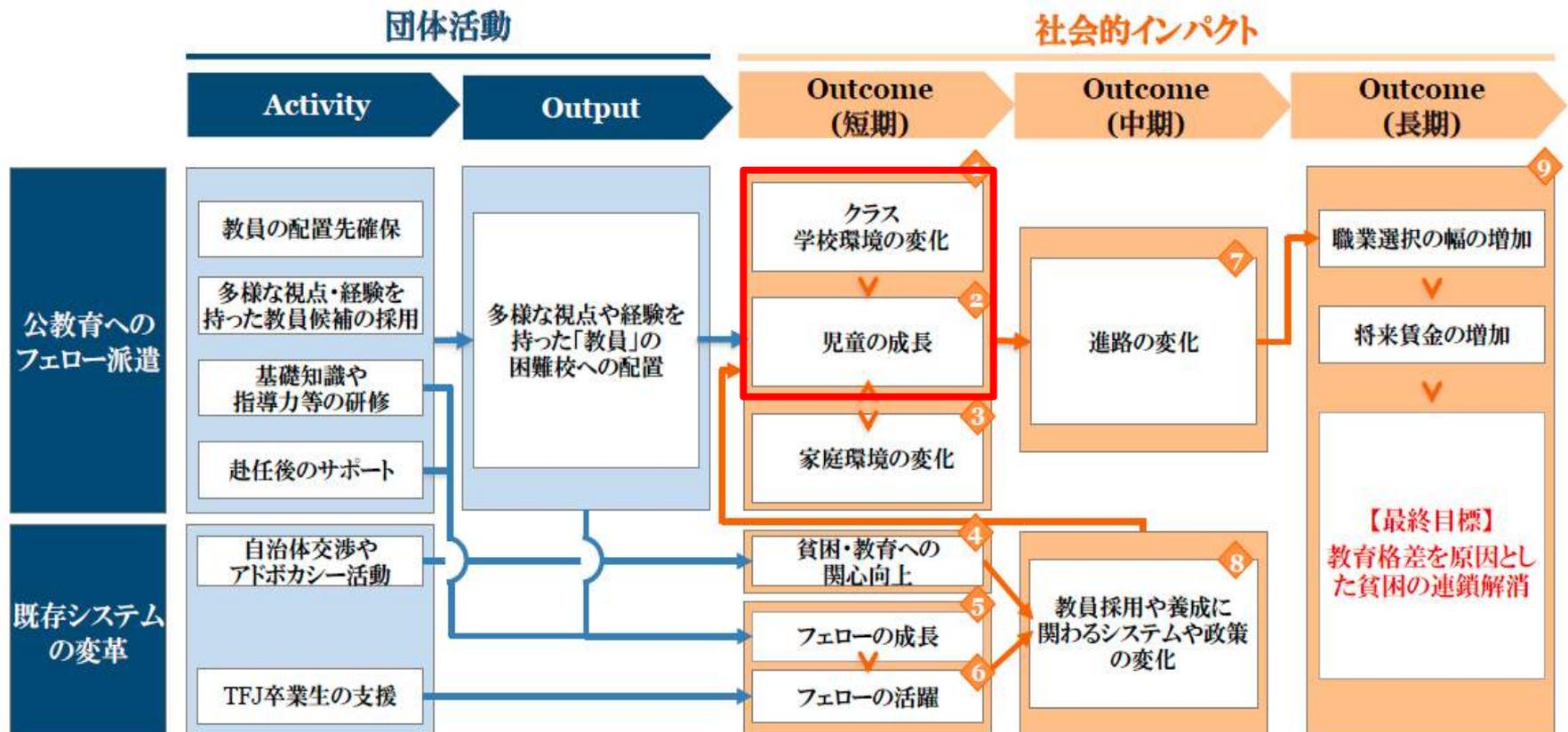


職員が遠隔地からでも学級集団や児童の状態を把握できる、比較可能で客観的な情報が必要だった。

2. 評価設計

TFJのロジックモデル

代表・職員のヒアリングを基に作成した



最終更新日: 2017.01.23
作成: 中島悠生

子供達に大切にしてほしいことの条件

1. 中期・長期アウトカムとの整合性
2. 文科省・学校教育目標との整合性
3. 多様性尊重を含む、倫理的問題



子供達に大切にしてほしいこと

子供達に大切にしてほしい事という形で、TFJの活動の結果子供達にどんな成長をもたらしたかを話し合った。

子供の成長

学力

テストの点数

学習習慣

学習意欲

指標としたもの



非学力

人を大切にすること

自分の考えを持つこと

自分の考えを表現すること

チャレンジすること

他者配慮

アサーション

自己効力感

TFJの評価モデル

教員の質、学級の質、生徒の成長のそれぞれにおいて、指標を設定し、その関連性を分析すること、子供の成長の観点より、望ましい学級環境を定義し、その観点よりあるべき教員像を定義することを目的とする

A. 資源



教員像

A-1. 性格的特性

パーソナリティの5因子モデルに従いフェローの性格特性を把握する。

A-2. 教員の職能

実現すべき教室環境への理解やそのための方法論の有無等、教員としての理解と行動を測定する。

関連性



B. プロセス



学級環境

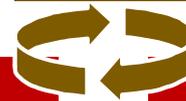
B-1. 授業運営

授業のわかりやすさ、児童へのケアの十分さ等、学級経営を教員の行動に焦点を当て測定する

B-2. 学級運営

学級満足度より児童の認識に焦点を当て教室環境を測定する。

関連性



C. 成果物



子供の成長

C-1. 学力

①テスト点数、②学習習慣、③学習意欲を測定する

C-2. 非認知能力

①他者配慮②自己効力③アサーションを測定する 

C-3. 分析用指標・QOL

肉体・精神的健康、家庭環境を含むQOLを測定する。

TFJの評価モデル

予定していた約**75%**が実施できなかった

3. 実施成果

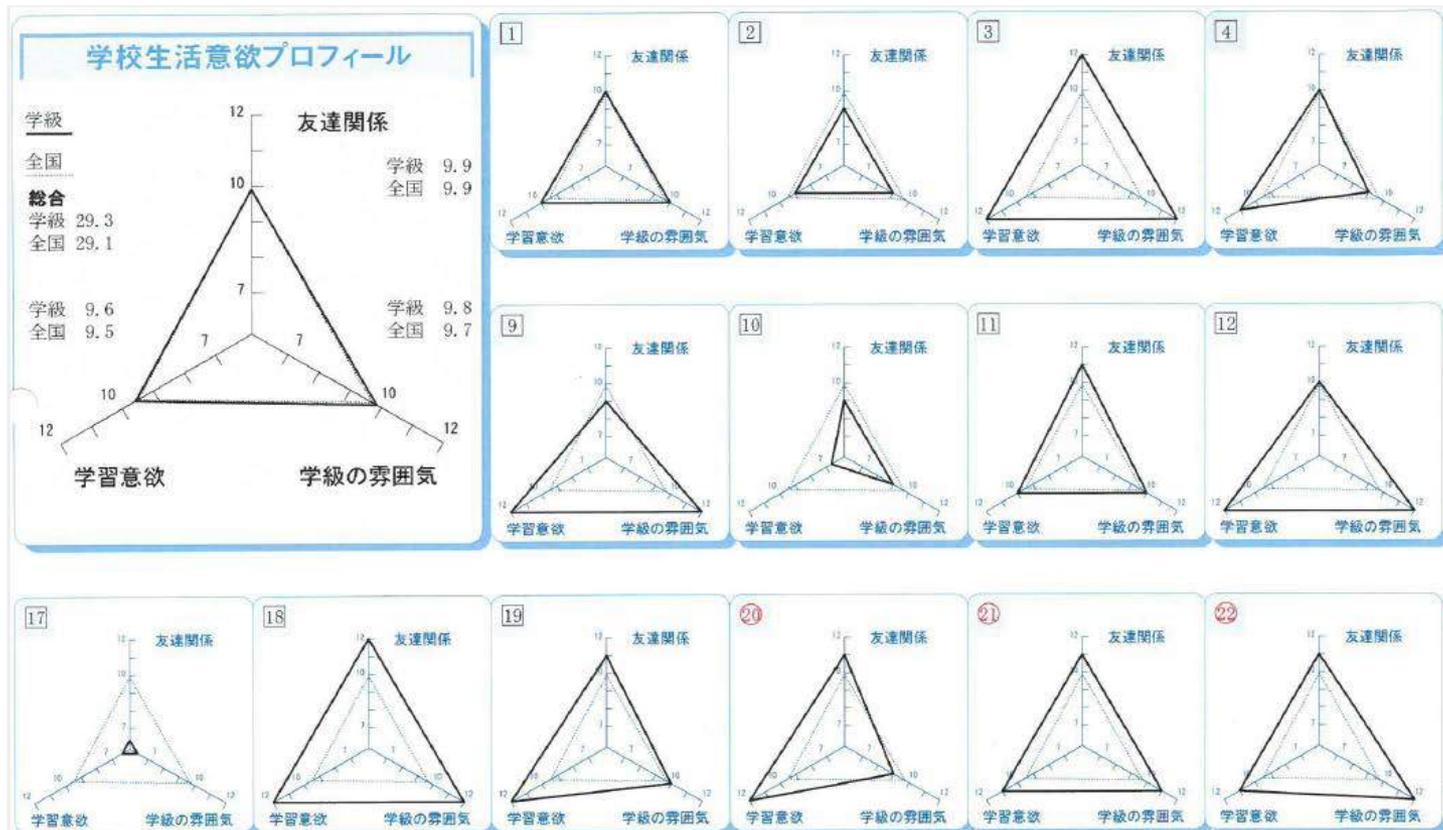
メジャーメント実施成果

学級集団の状態をルールを導入と関係性の構築の2軸より量的に可視化でき量になった。



メジャーメント実施成果

個別児童の状態を、友人関係、学習意欲、学級の雰囲気 の3点より把握できるようになった



メジャーメント実施成果

1. 遠隔地にいる教員経験のない職員も、クラスや受益者の状態を客観的に把握できるようになった。
2. 赴任教員の同士で情報を交換する際の共通言語が出来た。(By 研修担当インターン&赴任教員)
3. データがある事により、上職や周囲の先生に助けを求めやすくなった。(By 赴任教員)